徳島歯科学院専門学校　歯科技工士科

令和８年度　　シラバス

１年生　　後 期

講師紹介　歯科技工士科
１ 年　後 期

専門分野	授業科目	単位数	時 間	所 属 ・ 講師名	資 格	臨床経験	P
基礎分野	科学的思考の基盤、人間と生活 外国語	2	32	徳島歯科学院専門学校　歯科衛生士科　教務主任 弘田 克彦　　先生	歯科医師	有	1
	科学的思考の基盤、人間と生活 造形美術概論	1	16	渡辺 記世　　先生			3
	科学的思考の基盤、人間と生活 情報リテラシー	1	16	徳島県歯科医師会 藤谷 太郎　　先生 飛梅　悟　　先生 石川 輝明　　先生	歯科医師 歯科医師 歯科医師	有 有 有	4
専門基礎分野	歯科技工と歯科医療 関係法規	1	16	徳島歯科学院専門学校　歯科技工士科 専任教員　堤 美由紀　　先生	歯科技工士	有	5
	歯・口腔の構造と機能 口腔・顎顔面解剖応用実習	1	32	徳島歯科学院専門学校　歯科技工士科 専任教員　堤 美由紀　　先生	歯科技工士	有	6
専門分野	有床義歯技工学 部分床義歯技工学	2	32	徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔顎顔面補綴学分野 石田 雄一　　先生	歯科医師	有	7
	有床義歯技工学 全部床義歯応用実習	1	32	徳島歯科学院専門学校 専任教員　北浦 孝浩　　先生	歯科技工士	有	9
	有床義歯技工学 部分床義歯基礎実習	3	96	株式会社シケン 四宮 修司　　先生	歯科技工士	有	11
	歯冠修復技工学 口腔インプラント・橋義歯技工学	2	32	徳島大学大学院医歯薬学研究部　顎機能咬合再建学分野 松香 芳三　　先生	歯科医師	有	13
	歯冠修復技工学 単冠修復応用実習	2	64	徳島歯科学院専門学校　歯科技工士科 専任教員　北浦 孝浩　　先生	歯科技工士		15
	歯冠修復技工学 単冠修復発展実習	1	32	株式会社シケン 三浦 義史　　先生	歯科技工士	有	17
	歯冠修復技工学 デジタル実習	1	40	株式会社シケン 蛭子 貴司　　先生	歯科技工士	有	19
	矯正歯科技工学	1	16	徳島大学大学院医歯薬学研究部　口腔顎顔面矯正学分野 和田 涼平　　先生	歯科医師	有	20
	矯正歯科技工学 矯正歯科技工学実習	1	32	徳島歯科学院専門学校　歯科技工士科 専任教員　北浦 孝浩　　先生	歯科技工士		21
	小児歯科技工学	1	16	徳島大学大学院医歯薬学研究部　小児歯科学分野 長谷川 智一　先生	歯科医師	有	23
	小児歯科技工学 小児歯科技工学実習	1	32	徳島歯科学院専門学校　歯科技工士科 専任教員　北浦 孝浩　　先生	歯科技工士		24

科目分野	基礎分野		科目名	外国語（歯科英語）
学年	1年次		学期	後期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）		単位数	2 単位
授業形態	講義		使用場所	3 階 教室(1)
担当教員	弘田 克彦	大学病院で歯科医師として実務経験あり		

授業の目的(GIO)

歯科技工士としての「仕事」には、新しく確実な情報を得て、日々技術の研鑽に役立てることが大切である。そのため、自らの仕事に対する様々な情報を選択する際、「英語」を駆使できることは、判断の選択肢の幅を飛躍的に拡大し、優れた技工製作物製作に繋げることが可能となる。

授業の概要

ここでは以下3点に絞り必要不可欠と思われる項目について学習する

（1）コミュニケーションに必要な英会話
（2）歯科医院での英会話
（3）歯科技工で頻繁に使用される英会話

到達目標(SBOs)

1. コミュニケーションで頻用する英語表現と場面による使い分けを理解する
2. 海外の展示会参加に必要不可欠な英語表現を理解する
3. 海外で働くのに必要不可欠な英語表現を理解する
4. 歯科医院での会話を理解する
5. クラウン製作に必要な基礎用語を理解する
6. 陶材焼付冠製作に必要な基礎用語を理解する
7. 全部床義歯製作に必要な用語を理解する
8. 歯科技工士として必要な頻出用語を理解する

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	挨拶	はじめての挨拶、知り合いとの挨拶、国際交流、ショッピング	挨拶はコミュニケーションの基本であり、大変重要である。ここでは、英語表現と場面による使い分けを理解する	1	弘田 克彦
2	海外の展示会に参加する	入国手続き、タクシーに乗る、ホテルのフロント、展示会場に行く、デモの見学	海外の展示会に参加し貴重な機会を活かすためにも、参加に必要不可欠な英語表現と会話を理解する。	2	弘田 克彦
3	海外で働く	訪問先へのアポイント、面接、ラボ見学、採用試験	海外で働くことを夢見る若者は、いつの時代も多いと思われる。日頃から海外への意識を高め、練習に励む。	3	弘田 克彦
4	歯科医院での会話	歯が痛い、入れ歯を入れたい、歯並びを治したい	「歯が痛い」「入れ歯を入れたい」「歯並びを治したい」などの歯科医院での会話を通じ、治療の概要や関連する用語を理解する。	4	弘田 克彦
5	歯科医院での会話	歯を白くしたい、歯と歯の間に隙間ができた	「歯を白くしたい」「歯と歯の間に隙間ができた」などの歯科医院での会話を通じ、治療の概要や関連する用語を理解する。	4	弘田 克彦
6	歯科技工に必要な用語と英会話	歯の構造、クラウン製作、陶材焼付金属冠の製作	歯の構造、支台歯形成、印象採得、作業用模型の製作、模型分割、咬合器装着、ワックスパターン形成、埋没、鋳造、研磨、試適	5,6	弘田 克彦
7	歯科技工に必要な用語と英会話	義歯の製作	全部床義歯の製作、部分床義歯の製作、鋳造床義歯の製作	7	弘田 克彦
8	知っていると便利な英単語集	歯科技工関係の用語	器械、器具、技工装置、材料、クラウン関係、陶材焼付金属冠関係、有床義歯関係	8	弘田 克彦
9			科目復習		弘田 克彦
10			科目復習		弘田 克彦
11			科目復習		弘田 克彦
12			科目復習		弘田 克彦

13			科目復習		弘田 克彦
14			科目復習		弘田 克彦
15			科目復習		弘田 克彦
16			科目復習		弘田 克彦

教科書

最新歯科技工士教本 歯科英語 （医歯薬出版株式会社2022年）

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	基礎分野	科目名	造形美術概論
学年	1年次	学期	後 期
時間数	16 時間 （ 90 分 × 8 回 ）	単位数	1 単 位
授業形態	演 習	使用場所	3 階 教室(1)
担当教員	渡辺 記世		

授業の目的(GIO)

鉛筆デッサン、基礎色彩の実技指導を通して歯科技工作業につながるよう教授する

授業の概要

鉛筆デッサン、基礎色彩の表現法について学ぶ。

到達目標(SBOs)

1. 日常の中で五感を高め審美歯科につながるよう情報特性を働かせる。
2. 基礎デッサンの理論と実技。
3. 鉛筆、練り消しゴムを使い形や光と影を表現できるよう観察力を養う。
4. 造形形態の陰影を立体的に理論的に理解し写生力観察力を高め表現し描く。
5. 歯形の写真や模型を使ってプロポーションガイド(歯の形態観察用アクリル板)を使用。
6. 鉛筆デッサンをより深く精密に立体や材質感の表現をする。
7. 色の三属性、色彩対比他基礎知識を理解する。
8. 色の三原色の混合演習によって色彩感覚を育てる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	造形概論	造形概論	身近な中に自然や人工美について豊かに考える	1	渡辺 記世
2	基礎デッサン	基礎デッサン	デッサンの理論とクロッキーの実技	2	渡辺 記世
3	鉛筆デッサン	鉛筆デッサン	鉛筆デッサン	3	渡辺 記世
4	観察写生実技	観察写生実技	基本的の造形形態(球体、円錐、角柱他)を使って観察写生実技	4	渡辺 記世
5	鉛筆デッサン	鉛筆デッサン	鉛筆デッサン	6	渡辺 記世
6	歯の形態表現	歯の形態表現	歯の形態表現(歯型模型使用他)	5	渡辺 記世
7	色彩の基本理論	色彩の基本理論	色彩の基本理論	7	渡辺 記世
8	色彩感覚	色彩感覚	色の三原色、混合演習、色相環彩色表現	8	渡辺 記世

教科書

歯科技工美術概論 医歯薬出版(発行)

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点中60点以上

備考

スケッチブック 水彩絵の具 デッサン用鉛筆他準備

科目分野	基礎分野	科目名	情報リテラシー
学年	1年次	学期	後期
時間数	16 時間 （ 90 分 × 8 回 ）	単位数	1 単位
授業形態	講義、演習	使用場所	3 階 教室(1)
担当教員	藤谷 太郎	歯科診療所にて歯科医師として実務経験あり	
	飛梅 悟	歯科診療所にて歯科医師として実務経験あり	
	石川輝明	歯科診療所にて歯科医師として実務経験あり	

授業の目的(GIO)

情報社会において必要となる情報の収集・選択・活用に関する基礎的な知識を身につけるとともに、パソコンや生成AIなどのデジタルツールを適切に活用する能力を養う。

授業の概要

生成AI、表計算、ワープロ、プレゼンテーション等の基礎から実践的な活用方法について、講義および演習を通して学ぶ。

到達目標(SBOs)

1. 情報処理、医療情報の目的を述べる。
2. 情報セキュリティーの必要性を述べる。
3. コンピュータを活用できる。
4. コンピュータの歯科医療分野における利用法を述べる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	情報リテラシー	情報の収集と判断	情報の収集方法と基本的な考え方	1.2	藤谷太郎
2	デジタルツールの活用	生成AI・表計算ソフトの基礎	生成AIの基礎と活用、表計算ソフトの基本操作	3	藤谷太郎
3	情報の表現	プレゼンテーションの基礎	プレゼン作成の基本	3	石川輝明
4	情報の表現	プレゼンテーション演習	プレゼンテーションソフトを用いた資料作成	4	石川輝明
5	情報モラル	情報セキュリティ	個人情報、SNS、著作権等の適切な取り扱い	2.3	飛梅 悟
6	PCの利用法	文書作成	ワープロソフトの基本操作と活用	4	飛梅 悟
7	デジタル歯科	歯科技工とデジタル技術	歯科技工におけるデジタル技術とAIの活用	3	藤谷太郎
8	情報活用	総合演習	PCを活用した情報の収集・整理・表現	4	藤谷太郎

教科書

最新歯科技工士教本　歯科技工管理学／編集:全国歯科技工士教育協議会

参考

授業内容に応じてパソコン、スマートフォン等を使用することがある。

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専 門 基 礎 分 野	科目名	関 係 法 規
学年	1年次	学期	後　期
時間数	16　時間　（ 90 分 × 8 回 ）	単位数	1　　単　位
授業形態	講 義	使用場所	3 階 教室(1)
担当教員	堤　美由紀	歯科診療所で歯科技工士として臨床経験あり	

授業の目的(GIO)

医療人としての遵法精神を身に付けるために、歯科技工士として必要な法律を理解し、遵守する。

授業の概要

教科書をベースにして国家試験過去問を使い、幅広く歯科技能関係法規を勉強する。

到達目標(SBOs)

1. 法律の概要を説明できる。
2. 衛生行政の意義を説明できる。
3. 衛生行政の組織と活動を述べる。
4. 歯科技工士法の目的を述べる。
5. 歯科技工の法的定義を述べる。
6. 歯科技工士の法的定義を述べる。
7. 歯科技工所の法的定義を述べる。
8. 歯科技工免許の関する法律を説明できる。
9. 歯科技工国家試験の意義と目的を説明できる。
10. 歯科技工業務の内容を説明できる。
11. 歯科技工所に関する法律を説明できる。
12. 歯科技工に関する違反行為と罰則を説明できる。
13. 歯科医療法の目的を説明できる。
14. 病院と診療所の法的定義を述べる。
15. 歯科医師法の目的を説明できる。
16. 歯科医師の任務を説明できる。
17. 歯科衛生士法の目的を述べる。
18. 歯科衛生士法の法的定義を述べる。
19. 他の医療関係職種の法規に関する知識を身に付ける。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	関係法規	衛生行政	法律の概要、衛生行政の概要	1、2、3	堤　美由紀
2	関係法規	衛生行政	歯科衛生行政、歯科技工士と衛生行政の組織	1、2、3	堤　美由紀
3	関係法規	衛生行政	歯科衛生行政、歯科技工士と衛生行政の組織	1、2、4	堤　美由紀
4	関係法規	その他の関係法規	医療法、歯科医師法、歯科衛生士法	13-18	堤　美由紀
5	関係法規	歯科技工士法	歯科技工士法の成り立ち、総則	4、5	堤　美由紀
6	関係法規	歯科技工士法	免許、試験	8、9	堤　美由紀
7	関係法規	歯科技工士法	業務、歯科技工所、雑則	13-18	堤　美由紀
8	関係法規	歯科技工士法	罰則、附則	19	堤　美由紀

教科書

最新歯科技工士教本　歯科技工管理学／編集:全国歯科技工士教育協議会

参考

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門基礎分野		科目名	口腔・顎顔面解剖応用実習
学年	1年次		学期	後期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）		単位数	1 単位
授業形態	実習		使用場所	3 階 基礎実習室
担当教員	堤 美由紀	歯科診療所で歯科技工士として臨床経験あり		

授業の目的(GIO)

各歯の特徴、歯冠の形態を把握するために歯型彫刻を行い、観察力、再現力できる技術を修得する。

授業の概要

拡大歯牙模型（15㎜大）、等倍大模型を見本とし、直彫法と計測法を併用した彫刻を行う。

到達目標(SBOs)

1. 反対側の模刻による歯型彫刻ができる。
2. 歯根数を理解し彫刻により再現できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	歯・口腔の構造と機能	歯のデッサン・歯型彫刻	上顎左側第一大臼歯26	1	堤 美由紀
2			上顎左側第一大臼歯26	1	堤 美由紀
3			下顎左側第一大臼歯36	1	堤 美由紀
4			下顎左側第一大臼歯36	1	堤 美由紀
5			上顎左側第二大臼歯27	1	堤 美由紀
6			上顎左側第二大臼歯27	1	堤 美由紀
7			下顎左側第二大臼歯37	1	堤 美由紀
8			下顎左側第二大臼歯37	1	堤 美由紀
9		天然歯サイズ	上顎右側中切歯11(根付き)	2	堤 美由紀
10			上顎右側中切歯11(根付き)	2	堤 美由紀
11			上顎右側第一小臼歯14(根付き)	2	堤 美由紀
12			上顎右側第一小臼歯14(根付き)	2	堤 美由紀
13			上顎右側第一大臼歯16(根付き)	2	堤 美由紀
14			上顎右側第一大臼歯16(根付き)	2	堤 美由紀
15			下顎右側第一大臼歯46(根付き)	2	堤 美由紀
16			下顎右側第一大臼歯46(根付き)	2	堤 美由紀

教科書

最新歯科技工士教本/口腔・顎顔面解剖学/全国歯科技工士教育協議会編集 医歯薬出版2025

参考

【歯の解剖学 歯のデッサンと歯型彫刻】 歯科技工実習トレーニング
INVICTUSアナトミーモデル 歯型彫刻学習用顎模型/ニッシン
歯型彫刻学習用拡大模型/ニッシン

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

出席状況、実習態度、提出状況を加味し、ステップごとの提出物を総合的に判断し評価する。

備考

科目分野	専門分野		科目名	部分床義歯技工学
学年	1年次		学期	後 期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）		単位数	2 単 位
授業形態	講 義		使用場所	3 階 教室(1)
担当教員	石田 雄一	大学病院で歯科医師として実務経験あり		

授業の目的(GIO)

部分床義歯治療の概要や部分床義歯の各構成要素の知識、実際の治療の流れや製作過程・方法について学ぶ。

授業の概要

授業は教科書の内容に沿って解説を中心に行い、授業終了時に小テストを実施する。小テストの解説は翌週の授業初めに行い、前回の授業の復習を兼ねるようにする。

到達目標(SBOs)

1. 部分床義歯の構成要素を列挙できる
2. 部分床義歯を目的に応じて分類できる
3. 歯台装置の維持、支持、把持を説明できる
4. 支台装置の各部位の名称と役割を説明できる
5. 鋳造鉤と線鉤の特徴を説明できる
6. 環状鉤とバークラスプの種類と特徴を説明できる
7. アタッチメントとテレスコープ義歯の種類と特徴を説明できる
8. 連結子について説明できる
9. 部分床義歯の義歯床と人工歯について説明できる
10. 概形印象採得について説明でき、研究用模型、個人トレーが製作できる
11. 作業用模型、咬合床が製作でき、咬合採得について説明できる
12. サベイヤーの意義と構成を説明でき、使用できる
13. 鋳造鉤の設計ができる
14. 間接法と直接法により鋳造鉤が製作できる
15. 線鉤の種類を説明でき、製作できる
16. 鋳造バーと屈曲バーを製作できる
17. 人工歯の選択と排列、歯肉形成ができる
18. 加熱重合法と常温重合法の埋没ができる
19. 加熱重合と常温重合ができる
20. 部分床義歯の咬合調整と研磨ができる

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	部分床義歯の特性	部分床義歯の構成要素	部分床義歯の構成要素	1	石田 雄一
2	部分床義歯の特性	部分床義歯の分類	部分床義歯の分類方法	2	石田 雄一
3	部分床義歯の構成要素	支台装置	支台装置の維持、支持、把持	3, 4	石田 雄一
4	部分床義歯の構成要素	クラスプ	鋳造鉤と線鉤	5	石田 雄一
5	部分床義歯の構成要素	クラスプ	環状鉤とバークラスプ	6	石田 雄一
6	部分床義歯の構成要素	アタッチメント	アタッチメント義歯と テレスコープ義歯	7	石田 雄一
7	部分床義歯の構成要素	連結子、義歯床、人工歯	上顎と下顎の大連結子、 義歯床、人工歯	8, 9	石田 雄一
8	部分床義歯の診療	印象採得と咬合採得	研究用模型と個人トレー、 作業用模型と咬合床	10, 11	石田 雄一
9	部分床義歯の製作	クラスプの製作	サベイヤーの意義と構成	12	石田 雄一
10	部分床義歯の製作	クラスプの製作	サベイヤーの使用方法	12	石田 雄一
11	部分床義歯の製作	クラスプの製作	鋳造鉤の設計	13	石田 雄一

12	部分床義歯の製作	クラスプの製作	間接法と直接法による鋳造鉤の製作	14	石田 雄一
13	部分床義歯の製作	クラスプの製作	線鉤の種類と製作	15	石田 雄一
14	部分床義歯の製作	バーの製作	鋳造バーと屈曲バーの製作	16	石田 雄一
15	部分床義歯の製作	人工歯排列と埋没	人工歯排列と歯肉形成、 埋没方法	17, 18	石田 雄一
16	部分床義歯の製作	重合と完成	重合方法、義歯の咬合調整と研磨	19, 20	石田 雄一

教科書

最新歯科技工士教本 第2版/有床義歯技工学 : 全国歯科技工士教育協議会 編　医歯薬出版株式会社

参考

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門分野		科目名	全部床義歯応用実習
学年	1年次		学期	後 期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）		単位数	1 単 位
授業形態	実 習		使用場所	3 階 基礎実習室
担当教員	四宮 修司	歯科技工所で歯科技工士として臨床経験あり		

授業の目的(GIO)

有床義歯技工に必要な生体の形態・機能についての基礎知識を学び,無歯顎に対する補綴修復である全部床義歯の製作に必要な技工操作の知識や技術および手順を理解する。

授業の概要

無歯顎補綴ににおける全部床義歯の製作において、必要な知識や理論を習得するとともに、技工操作の基本について学習する。

到達目標(SBOs)

1. 全部床義歯技工学の意義と目的を説明できる。
2. 全部床義歯の構成要素を説明できる。
3. 全部床義歯での研究用模型と作業用模型の説明ができる。
4. 全部床義歯の製作工程について説明できる。
5. 全部床義歯の咬合床製作に必要な作業用模型の処理が説明できる。
6. 全部床義歯制作での歯科用材料について説明できる。
7. 全部床義歯における咬合堤の標準的な高さ、幅、が説明できる。
8. 全部床義歯における咬合堤の基準線の記入が説明できる。
9. 全部床義歯に用いられる咬合器の説明ができる。
10. 全部床義歯における作業用模型の咬合器装着を説明できる。
11. 全部床義歯の人工歯の種類と特徴を説明できる。
12. 全部床義歯における人工歯の選択方法を説明できる。
13. 全部床義歯の咬合関係を説明できる。
14. 全部床義歯における前歯部の人工歯排列方法を説明できる。
15. 全部床義歯における臼歯部の人工歯排列方法を説明できる。
16. 全部床義歯の人工歯排列ができる。
17. 全部床義歯における歯肉形成の意義と目的を説明できる。
18. 全部床義歯の唇側、頬側、舌側、口蓋部の形成の説明ができる。
19. 全部床義歯の辺縁処理を説明できる。
20. 全部床義歯の歯肉形成後の表面仕上げを説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	有床義歯技工学	有床義歯技工学概説	有床義歯技工学の意義と目的	1.2	四宮 修司
2	有床義歯技工学	全部床義歯の印象採得に伴う技工作業Ⅰ	作業用模型の製作	2.3	四宮 修司
3	有床義歯技工学	全部床義歯の印象採得に伴う技工作業Ⅱ	リリーフ・ブロックアウト	4.5	四宮 修司
4	有床義歯技工学	全部床義歯の印象採得に伴う技工作業Ⅲ	床外形線の記入 基準線の記入	4.5	四宮 修司
5	有床義歯技工学	全部床義歯の印象採得に伴う技工作業Ⅳ	トレー用レジンの圧接 形態修正	5.6	四宮 修司
6	有床義歯技工学	全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業Ⅰ	作業用模型の修正 口蓋後縁部の削除(ポストダム)	5.6	四宮 修司
7	有床義歯技工学	全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業Ⅱ	基礎床の製作	7.8	四宮 修司
8	有床義歯技工学	全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業Ⅲ	咬合堤の製作 標準線の記入	7.8	四宮 修司
9	有床義歯技工学	全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業Ⅳ	咬合器装着	9.1	四宮 修司
10	有床義歯技工学	全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成Ⅰ	前歯部人工歯排列	11.12.13 15.16	四宮 修司
11	有床義歯技工学	全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成Ⅱ	臼歯部人工歯排列	11.12.13 15.16	四宮 修司

12	有床義歯技工学	全部床義歯の 人工歯排列と歯肉形成Ⅲ	ワックスの盛り上げ、	17.18.19	四宮 修司
13	有床義歯技工学	全部床義歯の 人工歯排列と歯肉形成Ⅳ	唇側、頬側の形成	17.18、19	四宮 修司
14	有床義歯技工学	全部床義歯の 人工歯排列と歯肉形成Ⅴ	舌側、口蓋側の形成	17.18、19	四宮 修司
15	有床義歯技工学	全部床義歯の 人工歯排列と歯肉形成Ⅵ	床縁の処理	17.18、19	四宮 修司
16	有床義歯技工学	全部床義歯の 人工歯排列と歯肉形成Ⅶ	歯肉形成後の表面仕上げ	20	四宮 修司

教科書

最新歯科技工士教本 第2版/ 有床義歯技工学：全国歯科技工士教育協議会 編　医歯薬出版株式会社

参考

有床義歯技工:歯科技工学実習トレーニング　関西北陸地区歯科技工士学校連絡協議会(編)
医歯薬出版株式会社

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

出席状況、実習態度を加味し、ステップごとの提出物を総合的に判断し評価する。

備考

科目分野	専門分野		科目名	部分床義歯基礎実習
学年	1年次		学期	後 期
時間数	96 時間 （ 90 分 × 48 回 ）		単位数	3 単 位
授業形態	実 習		使用場所	3 階 基礎実習室
担当教員	四宮 修司	歯科技工所で歯科技工士として臨床経験あり		

授業の目的(GIO)

多数歯歯牙欠損患者の口腔内で部分床義歯がその機能・審美性を回復してその状態を長く維持する補綴装置であることを認識するために、部分床義歯の製作過程を実習しながら、維持装置、連結子や人工歯排列等の技術と理論を習得する。

授業の概要

歯冠補綴とはまた違った部分的な歯牙欠損補綴装置であることを認識するために、部分床義歯の製作過程を実習しながら、維持装置、連結子や人工歯排列等の技術と理論を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 口腔内の解剖学的ランドマークを列挙し、その意義を説明できる。
2. 個人トレーの説明と製作法が説明できる。
3. 作業用模型の目的と製作法について説明できる。
4. 部分床義歯基礎床の説明と製作法が説明できる。
5. 平均値咬合器への装着法について説明できる。
6. 平均値咬合器の構成要素を列挙し、その役割を説明できる。
7. サベイヤーの使用目的、構造及び使用法について説明できる。
8. 部分床義歯の構成要素を列挙し、その役割を説明できる。
9. 部分床義歯の製作手順を説明できる。
10. 部分床義歯の概形印象と精密印象を説明できる。
11. 支台装置、連結子の種類や機能について説明できる。
12. 鋳造鉤、線鉤の製作法について説明できる。
13. リリーフ、ブロックアウトの説明と製作法が説明できる。
14. 鋳造バー、屈曲バーの製作法について説明できる。
15. 鋳造バー、鋳造クラスプの製作法について説明できる。
16. 鋳造バー、鋳造クラスプの埋没、試適、研磨について説明できる。
17. 屈曲バー、屈曲クラスプの製作法について説明できる。
18. 屈曲バー、屈曲クラスプの試適、研磨について説明できる。
19. 部分床義歯の排列、削合について説明できる。
20. 部分床義歯の歯肉形成について説明できる。
21. 各種フラスク埋没法について説明できる。
22. 床用レジンの填入法ならびに重合法について説明できる。
23. レジン重合後の義歯床の取り出しについて説明できる。
24. 義歯床研磨の目的を理解し、その手順を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	部分床義歯基礎実習	部分床義歯の概説	部分床義歯実習の概要	1.2	四宮 修司
2	部分床義歯基礎実習	個人トレー製作①	個人トレー外形線、リリーフ	2	四宮 修司
3	部分床義歯基礎実習	個人トレー製作②	トレーレジン圧接、トリミング	2	四宮 修司
4	部分床義歯基礎実習	個人トレー製作③	柄・付与	2	四宮 修司
5	部分床義歯基礎実習	個人トレー製作④	コンパウンド付与完成	2	四宮 修司
6	部分床義歯基礎実習	咬合床製作①	模型製作、床外形線記入	3	四宮 修司
7	部分床義歯基礎実習	咬合床製作②	基礎床製作(トレーレジン圧接・トリミング)	4	四宮 修司
8	部分床義歯基礎実習	咬合床製作③	咬合堤(蝋堤)形成、咬合床完成	4	四宮 修司
9	部分床義歯基礎実習	咬合器装着	平均値咬合器装着	5.6	四宮 修司
10	部分床義歯基礎実習	サベイング、設計	サベイング、義歯の着脱方向の決定、義歯の本設計	8.9.10	四宮 修司
11	部分床義歯基礎実習	サベイング、設計	サベイング、義歯の着脱方向の決定、義歯の本設計	8.9.10	四宮 修司
12	部分床義歯基礎実習	設計	鋳造、線鉤、連結子設計	8.9.10	四宮 修司
13	部分床義歯基礎実習	設計	鋳造、線鉤、連結子設計	8.9.10	四宮 修司
14	部分床義歯基礎実習	リリーフ、ブロックアウト	リリーフ、ブロックアウト	13	四宮 修司

15	部分床義歯基礎実習	リリーフ、ブロックアウト	リリーフ、ブロックアウト	13	四宮 修司
16	部分床義歯基礎実習	ワックスアップ	ワックスアップ	15	四宮 修司
17	部分床義歯基礎実習	ワックスアップ	ワックスアップ	15	四宮 修司
18	部分床義歯基礎実習	ワックスアップ	ワックスアップ	15	四宮 修司
19	部分床義歯基礎実習	ワックスアップ	ワックスアップ	15	四宮 修司
20	部分床義歯基礎実習	埋没、鋳造	埋没、鋳造	16	四宮 修司
21	部分床義歯基礎実習	試適、研磨	試適、研磨	16	四宮 修司
22	部分床義歯基礎実習	屈曲	線鉤、連結子屈曲	17	四宮 修司
23	部分床義歯基礎実習	屈曲	線鉤、連結子屈曲	17	四宮 修司
24	部分床義歯基礎実習	屈曲	線鉤、連結子屈曲	17	四宮 修司
25	部分床義歯基礎実習	屈曲	線鉤、連結子屈曲	17	四宮 修司
26	部分床義歯基礎実習	試適、研磨	試適、研磨	18	四宮 修司
27	部分床義歯基礎実習	試適、研磨	試適、研磨	18	四宮 修司
28	部分床義歯基礎実習	人工歯排列	人工歯排列	19	四宮 修司
29	部分床義歯基礎実習	人工歯排列	人工歯排列	19	四宮 修司
30	部分床義歯基礎実習	人工歯排列	人工歯排列	19	四宮 修司
31	部分床義歯基礎実習	人工歯排列	人工歯排列	19	四宮 修司
32	部分床義歯基礎実習	歯肉形成	歯肉形成	20	四宮 修司
33	部分床義歯基礎実習	歯肉形成	歯肉形成	20	四宮 修司
34	部分床義歯基礎実習	歯肉形成	歯肉形成	20	四宮 修司
35	部分床義歯基礎実習	歯肉形成	歯肉形成	20	四宮 修司
36	部分床義歯基礎実習	蝋義歯埋没	一次埋没、二次埋没、三次埋没	21	四宮 修司
37	部分床義歯基礎実習	蝋義歯埋没	一次埋没、二次埋没、三次埋没	21	四宮 修司
38	部分床義歯基礎実習	流蝋、分離材塗布	流蝋（蝋抜き、脱蝋）、分離剤塗布	22.23	四宮 修司
39	部分床義歯基礎実習	レジン填入・重合	床用加熱重合レジン混和填入	22.23	四宮 修司
40	部分床義歯基礎実習	レジン填入・重合	床用加熱重合レジン混和填入	22.23	四宮 修司
41	部分床義歯基礎実習	レジン填入・重合	乾熱式重合	22.23	四宮 修司
42	部分床義歯基礎実習	レジン填入・重合	乾熱式重合	22.23	四宮 修司
43	部分床義歯基礎実習	模型割り出し	模型割り出し	22.23	四宮 修司
44	部分床義歯基礎実習	研磨	形態修正、研磨削合、	24	四宮 修司
45	部分床義歯基礎実習	研磨	形態修正、研磨削合、	24	四宮 修司
46	部分床義歯基礎実習	研磨	形態修正、研磨削合、完成	24	四宮 修司
47	部分床義歯基礎実習	研磨	形態修正、研磨削合、完成	24	四宮 修司
48	部分床義歯基礎実習	総括	部分床義歯製作過程を総括	24	四宮 修司

教科書

最新歯科技工士教本 第2版/ 有床義歯技工学 ： 全国歯科技工士教育協議会 編　医歯薬出版株式会社

参考

有床義歯技工:歯科技工学実習トレーニング　関西北陸地区歯科技工士学校連絡協議会(編)

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

出席状況、実習態度を加味し、ステップごとの提出物を総合的に判断し評価する。

備考

科目分野	専門分野		科目名	口腔インプラント・橋義歯技工学
学年	1年次		学期	後 期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）		単位数	2 単 位
授業形態	講 義		使用場所	3 階 教室(1)
担当教員	松香 芳三	大学病院で歯科医師として実務経験あり		

授業の目的(GIO)

歯の喪失や歯質欠損に対する補綴装置を製作するために、ブリッジや口腔インプラント、CAD/CAMクラウンを製作するのに必要な知識と技術を学ぶ。

授業の概要

歯冠修復学におけるブリッジや口腔インプラント、CAD/CAMクラウンにおける基礎的知識、治療手順、技工操作について修得する。

到達目標(SBOs)

1. ブリッジの概要と特徴について述べる。
2. ブリッジの種類とその特徴について説明できる。
3. 生物学的要件を説明できる。
4. 構造力学的要件を説明できる。
5. 化学的要件を説明できる。
6. 審美的要件を説明できる。
7. ブリッジの製作順序を診療室と技工室にわけて概説できる。
8. ブリッジにおける支台装置の種類と適応用途について説明できる。
9. ポンティックに必要な要件について説明できる。
10. ポンティックの種類と形態、および適応用途について説明できる。
11. 連結法の種類とそれぞれの特徴について説明できる。
12. 連結部に必要な要件について説明できる。
13. 全部金属ブリッジの製作法について説明できる。
14. 陶材焼付金属ブリッジの製作法について説明できる。
15. 半固定性ブリッジの製作法について理解する。
16. プロビジョナルレストレーションを併用したクラウンブリッジ治療の意義を理解する。
17. 接着ブリッジの意義、目的、製作法について理解する。
18. インプラントの目的を述べる。
19. インプラントの種類を列記できる。
20. インプラントの上部構造の製作を概説できる。
21. CAD/CAMシステムの構成と特徴を概説できる。
22. CAD/CAMシステムの利点と欠点、使用材料について概説できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	口腔インプラント・橋義歯技工学	ブリッジの概要と種類１	支台装置の種類と適応用途 ポンティックの種類と形態	1~10	松香 芳三
2	口腔インプラント・橋義歯技工学	ブリッジの概要と種類２	ポンティックの種類と形態 連結法	1~12	松香 芳三
3	口腔インプラント・橋義歯技工学	ブリッジ1	ブリッジの構造	7	松香 芳三
4	口腔インプラント・橋義歯技工学	ブリッジ2	ブリッジの製作	13~15	松香 芳三
5	口腔インプラント・橋義歯技工学	ブリッジの製作法1	ブリッジの製作法 P41～64	13~16	松香 芳三
6	口腔インプラント・橋義歯技工学	ブリッジの製作法2	ブリッジの製作法 P41～64	13~16	松香 芳三
7	口腔インプラント・橋義歯技工学	ブリッジの製作法3	ブリッジの製作法 P64～90	13~16	松香 芳三
8	口腔インプラント・橋義歯技工学	ブリッジの製作法4	ブリッジの製作法 P64～90	13~16	松香 芳三
9	口腔インプラント・橋義歯技工学	ブリッジの製作法5	ブリッジの製作法 P90～114	13~16	松香 芳三
10	口腔インプラント・橋義歯技工学	ブリッジの製作法6	ブリッジの製作法 P90～114	13~16	松香 芳三

11	口腔インプラント・橋義歯技工学	接着ブリッジの製作法１	意義・特徴、適応用途 支台歯形態	17	松香 芳三
12	口腔インプラント・橋義歯技工学	接着ブリッジの製作法２	接着ブリッジの製作法	17	松香 芳三
13	口腔インプラント・橋義歯技工学	口腔インプラント1	口腔インプラントの概要	18	松香 芳三
14	口腔インプラント・橋義歯技工学	口腔インプラント2	口腔インプラント治療の流れ、使用機材	19,20	松香 芳三
15	口腔インプラント・橋義歯技工学	CAD/CAM デンタルテクノロジー1	歯科用CAD/CAMｼｽﾃﾑの現状CAD/CAMｼｽﾃﾑの基礎	21	松香 芳三
16	口腔インプラント・橋義歯技工学	CAD/CAM デンタルテクノロジー2	歯科用CAD/CAMｼｽﾃﾑで使用する材料	22	松香 芳三

教科書

最新歯科技工士教本 第2版/歯冠修復技工学／全国歯科技工士教育協議会編集, 医歯薬出版2025、CAD/CAM ﾃﾞﾝﾀﾙﾃｸﾉﾛｼﾞｰ／日本歯科CAD/CAM学会・全国歯科技工士教育協議会監修:末瀬一彦、宮﨑隆編

参考

必要に応じて資料を配布する。

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門分野	科目名	単冠修復応用実習
学年	1年次	学期	後 期
時間数	64 時間 （ 90 分 × 32 回 ）	単位数	2 単 位
授業形態	実 習	使用場所	3 階 基礎実習室
担当教員	北浦 孝浩		

授業の目的(GIO)

冠修復技工の目的、種類、構造、材料、製作手順について顎口腔系の生理学的形態学的理論と関連づけて理解するために歯冠修復装置の種類、目的、製作方法を修得する。

授業の概要

部分被覆冠（FMC）製作、支台築造体製作、テンポラリークラウン・ブリッジ製作

到達目標(SBOs)

1. 歯冠修復における治療の流れを理解し、技工作業を行うことができる。
2. 技工器具、器材を正しく使用できる
3. 模型の扱いを理解し、正確な操作を行うことができる。
4. 研究用模型を製作できる。
5. 作業用模型も製作法を説明できる。
6. ダウエルピンを平行に植立することができる。
7. 歯型の保護に配慮して正確に歯型を分割する
8. 辺縁形態にあわせた歯型のトリミングができる。
9. 咬合器に作業用模型を装着できる
10. 生物学的・構造力学的・化学的要件を説明できる。
11. 部分被覆冠のワックスアップができる。
12. 軟化圧接法を用いたワクシングができる。
13. 解剖学的形態を理解し、対合歯との咬合関係をワクシングすることができる。
14. 適合精度の高いワックスパターンを製作することができる。
15. 辺縁形態、隣接面接触、咬合接触について適切な操作ができる。
16. クリストバライト埋没材を用い、気泡を混入しないように埋没できる。
17. 適切に火炎を調節し、鋳造操作を的確に行うことができる。
18. 鏡面研磨ができる。
19. 支台築造体の意義と目的を説明できる。
20. 支台築造体を製作できる。
21. テンポラリークラウンの意義と目的を説明できる。
22. 即時重合レジンを用いテンポラリークラウンを製作できる。
23. レジンの研磨ができる。
24. 製作物を期限内に完成提出できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	部分被覆冠1	作業用模型	作業用模型製作	1-5	北浦 孝浩
2	部分被覆冠1	作業用模型の種類	歯型固着式模型製作	2-8	北浦 孝浩
3	部分被覆冠1	咬合器への装着	平均値咬合器装着	9	北浦 孝浩
4	部分被覆冠1	ワックスアップ	軟化圧接法	10-15	北浦 孝浩
5	部分被覆冠1	ワックスアップ	盛り上げ法	10-15	北浦 孝浩
6	部分被覆冠1	埋没方法	スプルーイング・真空、二重埋没法	15.16	北浦 孝浩
7	部分被覆冠1	鋳造作業	遠心鋳造法	17	北浦 孝浩
8	部分被覆冠1	調 整	鋳造リング割り出し・試適	14	北浦 孝浩
9	部分被覆冠1	研 磨	研磨 ・ 提出	18.24	北浦 孝浩
10	部分被覆冠2	作業用模型	作業用模型製作	1-5	北浦 孝浩

11	部分被覆冠2	作業用模型の種類	歯型可撤式模型製作	2-8	北浦 孝浩
12	部分被覆冠2	咬合器への装着	平均値咬合器装着	9	北浦 孝浩
13	部分被覆冠2	ワックスアップ	46 盛り上げ法	10-15	北浦 孝浩
14	部分被覆冠2	ワックスアップ	36 盛り上げ法	10-15	北浦 孝浩
15	部分被覆冠2	埋没方法	スプルーイング・真空、二重埋没法	15.16	北浦 孝浩
16	部分被覆冠2	鋳造作業	遠心鋳造法	17	北浦 孝浩
17	部分被覆冠2	調 整	鋳造リング割り出し・試適	14	北浦 孝浩
18	部分被覆冠2	研 磨	研磨 ・ 提出	18.24	北浦 孝浩
19	支台築造 (メタルコア)	作業用模型製作	印象への石膏注入	1-5.19	北浦 孝浩
20	支台築造 (メタルコア)	作業用模型の種類	歯型可撤式模型製作	7.8	北浦 孝浩
21	支台築造 (メタルコア)	咬合器への装着	咬合器装着	9	北浦 孝浩
22	支台築造 (メタルコア)	ワックスアップ	ポスト部・歯冠形態 ワックスアップ	10.13.15	北浦 孝浩
23	支台築造 (メタルコア)	支台築造体形成	コア採得・カットバック	10.14.20	北浦 孝浩
24	支台築造 (メタルコア)	スプルーイング・埋没	スプルーイング・埋没	14.16	北浦 孝浩
25	支台築造 (メタルコア)	鋳 造 ・ 調 整	鋳造・鋳造リング割り出し・試適	14.17	北浦 孝浩
26	支台築造 (メタルコア)	研 磨	研 磨	10.18	北浦 孝浩
27	テンポラリークラウン製作 1	印象採得法	常温重合レジン填入	21.22	北浦 孝浩
28	テンポラリークラウン製作 1	印象採得法	歯冠形態回復	15.21	北浦 孝浩
29	テンポラリークラウン製作 1	印象採得法	研 磨 ・ 完 成	15.22-24	北浦 孝浩
30	テンポラリークラウン製作 2	既製人工歯使用製作	人工歯形態修正	15.22.23	北浦 孝浩
31	テンポラリークラウン製作 2	既製人工歯使用製作	歯冠形態回復	15.22.23	北浦 孝浩
32	テンポラリークラウン製作 2	既製人工歯使用製作	研 磨 ・ 完 成	15.22-24	北浦 孝浩

教科書

歯冠修復技工学/全国歯科技工士教育協議会編集　医歯薬出版2019

参考

【歯冠修復技工】 歯科技工実習トレーニング

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

出席状況、実習態度、提出状況を加味し、ステップごとの提出物を総合的に判断し評価する。

備考

科目分野	専門分野		科目名	単冠修復発展実習
学年	1年次		学期	後 期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）		単位数	1 単 位
授業形態	実 習		使用場所	3 階 基礎実習室
担当教員	三浦 義史	歯科技工所で歯科技工士として臨床経験あり		

授業の目的(GIO)

歯の部分的な欠損に対し補綴物での歯の色を改善して審美的な色調を取り戻す方法を学び、歯冠修復物を製作するために必要な知識と技術を学ぶ。

授業の概要

歯冠修復学の基礎的知識、技工操作を習得するとともに、歯冠修復の基礎となるクラウン、インレー、コアを製作するるために必要な知識と技術を学ぶ。

到達目標(SBOs)

1. 歯冠修復学の意義と目的を説明できる。
2. 歯冠修復の作業用模型の意義と目的を説明できる。
3. 歯冠修復における作業用模型の構成、要件、特徴、種類を説明できる。
4. 歯冠修復における歯型の分割・トリミングについて説明できる。
5. 歯冠修復における作業用模型製作の工程を説明できる。
6. 歯冠修復における咬合器装着を説明できる。
7. 歯冠修復におけるワックスアップの作業工程が説明できる。
8. 歯冠修復におけるワックスアップの方法が説明できる。
9. 歯冠修復におけるワックスアップ時の咬合面、頬舌面、隣接面形態の説明ができる。
10. 歯冠修復におけるワックスパターンの埋没・鋳造が説明できる。
11. 歯冠修復物の歯型への適合について説明できる。
12. 歯冠修復物の外面の調整を説明できる。
13. 歯冠修復物の内面の調整を説明できる。
14. 歯冠修復物の辺縁部の調整を説明できる。
15. 歯冠修復物の隣接面の調整を説明できる。
16. 歯冠修復物の咬合面の調整を説明できる。
17. 歯冠修復物の研磨の意義と目的を説明できる。
18. 歯冠修復物の研磨器具、材料の説明ができる
19. 歯冠修復物のと研磨方法を説明できる。
20. 歯冠修復物の研磨後の歯型への試適、再点検を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 模型製作工程Ⅰ	作業用模型の製作 一次石膏注入	1.2.3	三浦 義史
2	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 模型製作工程Ⅱ	作業用模型の製作 ダウエルピンの植立	1.2.3	三浦 義史
3	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 模型製作工程Ⅲ	ボクシング製作	1.2.3	三浦 義史
4	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 模型製作工程Ⅳ	作業用模型の製作 二次石膏注入	3.4	三浦 義史
5	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 模型製作工程Ⅴ	模型の調整	3.4.5	三浦 義史
6	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 模型製作工程Ⅵ	歯型の分割	3.4.5	三浦 義史
7	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 模型製作工程Ⅶ	歯型のトリミング	3.4.5	三浦 義史
8	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 模型製作工程Ⅷ	咬合器装着	6	三浦 義史
9	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 製作工程Ⅰ	ワックスアップ クラウン・インレー・コア	7.8.9	三浦 義史
10	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 製作工程Ⅱ	スプルー線の植立	7.8.9	三浦 義史
11	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア 製作工程Ⅲ	埋没・鋳造	10	三浦 義史

12	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア製作工程Ⅳ	歯型への試適	11.12.13.14.15	三浦 義史
13	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア製作工程Ⅴ	隣接面接触点の調整	11.12.13.14.15.16	三浦 義史
14	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア製作工程Ⅵ	咬合の調整	11.12.13.14.15.16	三浦 義史
15	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア製作工程Ⅶ	研磨	17.18.19	三浦 義史
16	歯冠修復技工学	クラウン・インレー・コア製作工程Ⅷ	試適、再点検	20	三浦 義史

教科書

最新歯科技工士教本 第2版/歯冠修復技工学　全国歯科技工士教育協議会(編集)　医歯薬出版株式会社

参考

歯冠修復技工:歯科技工学実習トレーニング　関西北陸地区歯科技工士学校連絡協議会(編)　医歯薬出版株式会社

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

出席状況、実習態度を加味し、ステップごとの提出物を総合的に判断し評価する。

備考

科目分野	専門分野		科目名	デジタル実習
学年	1年次		学期	後 期
時間数	40 時間 （ 90 分 × 20 回 ）		単位数	1 単 位
授業形態	実習		使用場所	3F 理工検査室
担当教員	蛭子 貴司	歯科技工所で歯科技工士として臨床経験あり		

授業の目的(GIO)

CAD/CAMクラウンを製作するために必要な基礎知識、基本操作、設計操作を修得する。

授業の概要

CAD/CAMシステムによりスキャニング、デザイン、加工データの生成、ブロックを用いてミリングを行い、小臼歯単冠を製作する。

到達目標(SBOs)

1. CAD/CAMシステムの構成要素について説明できる。
2. PC、スキャナーの起動ができる。
3. スキャナーのキャリブレーションができる。
4. 注文フォームの作成ができる。
5. スキャニングができる。
6. マウスの操作ができる。
7. モデリングができる。
8. CAM出力データの生成
9. 加工機へブロックを正確にセットできる。
10. ブロックからコネクタを切り取ることができる。
11. CAD/CAMクラウンの調整、最終研磨ができる。
12. 製作物を期限内に完成提出できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	CAD/CAMシステム	CAD/CAM冠製作	作業用模型の製作	1-5	蛭子 貴司
2		スキャニング	歯型の計測	1-5	蛭子 貴司
3			歯型の計測	1-5	蛭子 貴司
4		デザイン	CADによる歯冠形態の設計	6.7	蛭子 貴司
5			CADによる歯冠形態の設計	6.7	蛭子 貴司
6		NCデータ作成	CAMによる加工データの生成	6.8	蛭子 貴司
7			CAMによる加工データの生成	6.8	蛭子 貴司
8		ミリング	加工機によるブロックの切削	9	蛭子 貴司
9			加工機によるブロックの切削	9	蛭子 貴司
10			ブロックからの切り出し	10	蛭子 貴司
11			CAD/CAMクラウンの内面調整	11	蛭子 貴司
12			CAD/CAMクラウンの内面調整	11	蛭子 貴司
13			CAD/CAMクラウンの隣接面調整	11	蛭子 貴司
14			CAD/CAMクラウンの咬合調整	11	蛭子 貴司
15			CAD/CAMクラウンの形態修正	11	蛭子 貴司
16			CAD/CAMクラウンのつや出し	11	蛭子 貴司
17		CAD/CAM冠製作	ワックスアップ	1-5	蛭子 貴司
18		スキャニング	ダブルスキャン	1-5	蛭子 貴司
19		NCデータ作成	CAMによる加工データの生成	6.7	蛭子 貴司
20			完成・提出	12	蛭子 貴司

教科書

最新歯科技工士教本 第2版/歯科理工学・歯冠修復技工学・歯科技工実習/全国歯科技工士教育協議会

参考

基礎から学ぶCAD/CAMテクノロジー

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

出席状況、実習態度を加味し、ステップごとの提出物を総合的に判断し評価する。

備考

科目分野	専門分野		科目名	矯正歯科技工学
学年	1年次		学期	後期
時間数	16 時間 （90 分 × 8 回）		単位数	1 単位
授業形態	講義		使用場所	3 階 教室(1)
担当教員	和田 涼平	大学病院で歯科医師として実務経験あり		

授業の目的(GIO)

矯正歯科治療における正常咬合と不正咬合をの特徴を通して、矯正歯科技工の意義と目的を理解する。矯正歯科技工に用いる器械・器具名と材料を列挙し、また技工作業における基本的手技を理解する。矯正用口腔模型の種類と特徴を理解する。各種矯正装置の目的と構成を理解し、主な製作法を修得する。

授業の概要

矯正線の特徴、性質について学び、加工の仕方また、色々な矯正装置の製作法、臨床で必要な技工操作を行えるようにさまざまな知識、技術を習得するための講義を行う。

到達目標(SBOs)

1. 矯正治療の意義と目的を説明できる。
2. 矯正歯科治療における症例分析法を説明できる。
3. 矯正歯科治療における矯正歯科技工の目的を説明できる。
4. 正常咬合の条件と種類を列挙できる。
5. 不正咬合について説明できる。
6. 矯正歯科技工によく用いられる器械・器具名と材料の種類を列挙できる。
7. 矯正歯科技工によく用いられる器械・器具名と材料の用途を説明できる。
8. 線屈曲ができる。
9. 自在蝋付けができる。
10. 矯正用レジンで矯正装置の床部を形成できる。
11. 矯正用口腔模型の種類と特徴を列挙できる。
12. 平行模型の製作法を説明できる。
13. セットアップモデルの用途と製作法を説明できる。
14. 矯正装置の必要条件を説明できる。
15. 矯正装置の分類を説明できる。
16. 各種動的矯正装置の目的と構成、製作法を説明できる。
17. 各種保定装置の目的と構成、製作法を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	矯正歯科技工学	矯正治療の意義と目的	不正咬合による障害	1.2.3	和田 涼平
2	矯正歯科技工学	正常咬合と不正咬合	正常咬合の種類、不正咬合（咬合異常）	4.5	和田 涼平
3	矯正歯科技工学	矯正治療の進め方	矯正歯科治療の流れ、症例分析、診断、動的治療、保定	3	和田 涼平
4	矯正歯科技工学	矯正歯科技工の器具器械、手技	矯正用技工器具と器械の名称、使用法	6.7.8	和田 涼平
5	矯正歯科技工学	矯正歯科技工の手技	矯正用線の屈曲、自在鑞付け、矯正用レジンの使用法	8.9.10	和田 涼平
6	矯正歯科技工学	矯正用口腔模型の製作	矯正用口腔模型の種類と特徴、製作法	11.12.13	和田 涼平
7	矯正歯科技工学	矯正用口腔模型の製作	矯正装置の必要条件・分類、目的、構成、製作法	14.15.16	和田 涼平
8	矯正歯科技工学	保定装置	保定装置の目的、構成、製作法	17	和田 涼平

教科書

最新歯科技工士教本/矯正歯科技工学/全国歯科技工士教育協議会編集

参考

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門分野	科目名	矯正歯科技工学実習
学年	1年次	学期	後 期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）	単位数	1 単 位
授業形態	実 習	使用場所	3 階 基礎実習室
担当教員	北浦 孝浩		

授業の目的(GIO)

矯正線を使って矯正装置、矯正、保定力をコントロールし各種矯正装置と保定装置が歯牙の移動をスムーズに任意の場所に移動、保定する技術と理論および制作法を習得する。

授業の概要

矯正線の特徴、性質について学び、加工の仕方また、色々な矯正装置の製作法、臨床で必要な技工操作を行えるようにさまざまな知識、技術を習得するための実習を行う。

到達目標(SBOs)

1. 矯正線の特徴、性質について説明できる。
2. 矯正装置の構成要素中で、矯正線のその役割を説明できる。
3. プライヤーの種類について説明できる。
4. 矯正線屈曲の手順を説明できる。
5. ループ、ボックスの屈曲手順を説明できる。
6. 矯正線の蝋着の特徴、性質について説明できる。
7. 矯正装置の構成要素中で、矯正線の蝋着その役割を説明できる。
8. プライヤー、切り下げ、フラックス、蠟について説明できる。
9. 自在蝋付ができる。
10. 蝋着部の研磨について説明できる。
11. 矯正患者の口腔内の解剖学的ランドマークを列挙し、その意義を説明できる。
12. リンガルアーチの構成要素を列挙し、その役割を説明できる。
13. リンガルアーチの製作手順を説明できる。
14. 作業用模型の目的と製作法について説明できる。
15. リンガルアーチの設計について説明できる。
16. バンド冠の特徴について説明できる。
17. 維持装置について説明できる。
18. リンガルアーチの主線について説明できる。
19. 自在蝋付ができる。
20. 補助断弾線の目的と製作法について説明できる。
21. リンガルアーチ研磨の目的を理解し、その手順を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	矯正歯科技工学実習	線屈曲の概要	矯正線の屈曲	1-5	北浦 孝浩
2	矯正歯科技工学実習	線屈曲の手順1	矯正線の屈曲	1-5	北浦 孝浩
3	矯正歯科技工学実習	線屈曲の手順2	矯正線の屈曲	1-5	北浦 孝浩
4	矯正歯科技工学実習	線屈曲の手順3	矯正線の屈曲	1-5	北浦 孝浩
5	矯正歯科技工学実習	鑞着の概要	矯正線の蝋着	6-9	北浦 孝浩
6	矯正歯科技工学実習	鑞着の手順1	矯正線の蝋着	6-9	北浦 孝浩
7	矯正歯科技工学実習	鑞着の手順2	矯正線の蝋着	6-9	北浦 孝浩
8	矯正歯科技工学実習	鑞着の手順3	矯正線の蝋着	10	北浦 孝浩
9	矯正歯科技工学実習	リンガルアーチの概要	リンガルアーチ実習の概要	11-13	北浦 孝浩
10	矯正歯科技工学実習	リンガルアーチの手順1	リンガルアーチの模型製作	14.15	北浦 孝浩
11	矯正歯科技工学実習	リンガルアーチの手順2	リンガルアーチの設計	14.15	北浦 孝浩
12	矯正歯科技工学実習	リンガルアーチの手順3	バンド冠の試適	16	北浦 孝浩
13	矯正歯科技工学実習	リンガルアーチの手順4	維持装置の蝋着、主線屈曲	17.18.	北浦 孝浩

14	矯正歯科技工学実習	リンガルアーチの手順5	主線と維持装置の蝋着	19	北浦 孝浩
15	矯正歯科技工学実習	リンガルアーチの手順6	補助弾線の蝋着、屈曲	20	北浦 孝浩
16	矯正歯科技工学実習	リンガルアーチの手順7	リンガルアーチの研磨	21	北浦 孝浩

教科書

矯正歯科技工学（医歯薬出版株式会社、2019年）

参考

矯正歯科技工学（医歯薬出版株式会社、2019年）

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

出席状況、実習態度を加味し、ステップごとの提出物を総合的に判断し評価する。

備考

科目分野	専門分野	科目名	小児歯科技工学
学年	1年次	学期	後 期
時間数	16 時間 （ 90 分 × 8 回 ）	単位数	1 単 位
授業形態	講 義	使用場所	3 階 教室(1)
担当教員	長谷川 智一 智一 大学病院で歯科医師として実務経験あり		

授業の目的(GIO)

小児の発育期を対象として歯科的処置を行うため、その発育段階を熟知し、その後の変化を理解し、歯科的問題を予防あるいは早期に発見し治療、管理し健全な永久歯列の獲得を目的とする。

授業の概要

無歯期、乳歯列期、混合歯列期および永久歯列期の発育段階を理解し、臨床で必要な技工操作を行えるようにさまざまな知識、技術を習得するための講義を行う。

到達目標(SBOs)

1. 小児歯科学とはどのようなものかを理解する。
2. 小児歯科技工の特徴を理解する。
3. 小児の成長発育について理解する。
4. 小児の破・顎・顔面の成長発育の特徴について理解する。
5. 歯の萌出・交換の順序、時期について理解する。
6. 乳歯の特徴についての知識を学ぶ。
7. 歯列の特徴についての知識を学ぶ。
8. 小児の年齢、特に生理的年齢について理解する。
9. 小児の歯冠修復の種類と特徴を理解する。
10. 咬合誘導の概念を理解する。
11. 咬合誘導装置の種類を知る。
12. 保隙装置の種類と分類を知る。
13. 各種穂劇装置の構成と製作法を理解する。
14. スペースリゲーナーの意義を理解する。
15. スペースリゲーナーの構成を理解する。
16. 口腔習癖の種類を知る。
17. 舌癖除去装置の構成を理解する。
18. 咬合誘導装置に用いる維持装置の種類を知る。
19. アダムスのクラスプの特徴を理解する。
20. シュワルツのクラスプの利点と欠点を理解する。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	小児歯科技工概説	小児歯科学を理解する	小児歯科技工の特徴を理解する	1, 2	長谷川 智一
2	歯・顎・顔面の成長発育	小児発育を理解する	歯の萌出順序など	3, 4	長谷川 智一
3	小児の歯冠修復	乳歯・幼若永久歯の歯冠修復	修復方法の解説	5,6,7,8	長谷川 智一
4	咬合誘導とは	咬合誘導の目的	咬合誘導の種類	9,10,11	長谷川 智一
5	保隙装置	保隙装置の目的	各種装置の適応症	12,13,14	長谷川 智一
6	スペースリゲーナー	スペースリゲインの目的	装置の種類	15,16	長谷川 智一
7	口腔習癖除去装置	口腔習癖の説明	習癖除去装置の説明	17,18	長谷川 智一
8	咬合誘導装置の維持装置	装置の維持装置について	各種維持装置の解説	19,20	長谷川 智一

教科書

最新歯科技工士教本 第2版/小児歯科技工学

参考

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

授業態度、出席状況を加味して、学期末試験成績を主に評価し合否を判定する。100点満点中60点以上を合格とする。

備考

科目分野	専門分野	科目名	小児歯科技工学実習
学年	1年次	学期	後 期
時間数	32 時間 （ 90 分 × 16 回 ）	単位数	1 単 位
授業形態	実 習	使用場所	3 階 基礎実習室
担当教員	北浦 孝浩		

授業の目的(GIO)

小児の患者の口腔内でクラウンループ、小児義歯、スペースリゲイナーが保隙装置として永久歯と円滑に交代することを認識するために各保隙装置の製作過程を実習しながら、技術と理論を習得する。

授業の概要

無歯期、乳歯列期、混合歯列期および永久歯列期の発育段階を理解し、臨床で必要な技工操作を行えるようにさまざまな知識、技術を習得するための実習を行う。

到達目標(SBOs)

1. 小児の口腔内の解剖学的ランドマークを列挙し、その意義を説明できる。
2. 保隙装置の種類と分類について説明できる。
3. 各種保隙装置の構成と製作法について説明できる。
4. クラウンループの構成要素を列挙し、その役割を説明できる。
5. クラウンループの使用材料、器具について説明できる。
6. クラウンループの制作法について説明できる。
7. 咬合器への装着法について説明できる。
8. 作業用模型の目的と製作法について説明できる。
9. 乳歯用既成金属冠の試適について説明できる。
10. ループの設計について説明できる。
11. ループの屈曲について説明できる。
12. 蝋着について説明できる。
13. 研磨について説明できる。
14. 小児の口腔内の解剖学的ランドマークを列挙し、その意義を説明できる。
15. 保隙装置の種類と分類について説明できる。
16. 小児義歯保隙装置の構成と製作法について説明できる。
17. 小児義歯の構成要素を列挙し、その役割を説明できる。
18. 小児義歯の製作手順を説明できる。
19. 作業用模型の目的と製作法について説明できる。
20. ｵｸﾙｰｻﾞﾙﾚｽﾄについて説明できる。
21. 乳歯の選択および排列について説明できる。
22. 歯肉形成について説明できる。
23. 即時重合レジンの筆済み法ならびに重合法について説明できる。
24. レジン重合後の作業用模型の意義について説明できる。
25. 小児の口腔内の解剖学的ランドマークを列挙し、その意義を説明できる。
26. 保隙装置の種類と分類について説明できる。
27. スペースリゲイナー保隙装置の構成と製作法について説明できる。
28. スペースリゲイナーの構成要素を列挙し、その役割を説明できる。
29. スペースリゲイナーの製作手順を説明できる。
30. 作業用模型の目的と製作法について説明できる。
31. 唇側線について説明できる。
32. ｸﾗｽﾌﾟについて説明できる。
33. スプリングについて説明できる。
34. 即時重合レジンの筆済み法ならびに重合法について説明できる。
35. レジン重合後の作業用模型の意義について説明できる。
36. スペースリゲイナーの床研磨の目的を理解し、その手順を説明できる。

授業計画

回	大項目	中項目	内容	到達目標	担当教員
1	小児歯科技工学実習	クラウンループ製作の要件	クラウンループの概要、模型製作	1-5	北浦 孝浩

2	小児歯科技工学実習	クラウンループ製作の手順1	クラウンループ設計	6-8	北浦 孝浩
3	小児歯科技工学実習	クラウンループ製作の手順2	乳歯用既成金属冠の試適	9	北浦 孝浩
4	小児歯科技工学実習	クラウンループ製作の手順3	ループ部のリリーフ、屈曲	10.11	北浦 孝浩
5	小児歯科技工学実習	クラウンループ製作の手順4	クラウンループのループ乳歯冠部屈曲	10.11	北浦 孝浩
6	小児歯科技工学実習	クラウンループ製作の手順5	ループと乳歯冠部の蝋着、研磨	12.13	北浦 孝浩
7	小児歯科技工学実習	小児義歯の製作要件	小児義歯実習の概要、模型製作	14-18	北浦 孝浩
8	小児歯科技工学実習	小児義歯の製作手順1	小児義歯の設計	19	北浦 孝浩
9	小児歯科技工学実習	小児義歯の製作手順2	補強線、オクルーザルレスト屈曲	20	北浦 孝浩
10	小児歯科技工学実習	小児義歯の製作手順3	乳歯人工歯排列	21	北浦 孝浩
11	小児歯科技工学実習	小児義歯の製作手順4	乳歯人工歯コア採得	21	北浦 孝浩
12	小児歯科技工学実習	小児義歯の製作手順5	小児義歯床レジン盛り上げ、研磨	22-24	北浦 孝浩
13	小児歯科技工学実習	スペースリゲイナーの製作要件	スペースリゲイナー実習の概要、模型製作	25-28	北浦 孝浩
14	小児歯科技工学実習	スペースリゲイナーの製作手順1	スペースリゲイナーの設計	29.30	北浦 孝浩
15	小児歯科技工学実習	スペースリゲイナーの製作手順2	唇側線、ｸﾗｽﾌﾟ、スプリング屈曲	31-33	北浦 孝浩
16	小児歯科技工学実習	スペースリゲイナーの製作手順3	レジン盛り上げ、研磨	34-36	北浦 孝浩

教科書

小児歯科技工学（医歯薬出版株式会社、2019年）

参考

小児歯科技工学（医歯薬出版株式会社、2019年）

試験の受験資格

3分の2以上の出席

成績評価の方法

出席状況、実習態度を加味し、ステップごとの提出物を総合的に判断し評価する。

備考